

JUKI CORPORATION Environmental Report 2014

JUKI 環境報告書2014

Contents

- 02 JUKIグループの企業理念
- 03 トップメッセージ
- 04 JUKIグループの概要
- 05 マネジメント体制
- 〔環境報告〕
- 06 環境ビジョン
- 08 Chapter I JUKIのものづくり
- 14 Chapter II エコプロダクツで
- 15 Chapter III マネジメント・パフォーマンス
- 〔ステークホルダーとともに〕
- 18 ステークホルダーとの関わり
- 19 お客様・お取引先とともに
- 20 従業員とともに
- 21 株主・投資家とともに
地域社会とともに

JUKI グループの企業理念

全世界に広がる JUKI グループすべての従業員が、グループが掲げる企業理念、経営基本方針、社員行動指針のもと、より優れた製品の研究、開発、製造、サービスの提供に努めています。

■ コーポレートスローガン

Mind & Technology

心の通う技術とお客様第一主義で社会に役立つ製品を創造します

企業理念

JUKI は、ここに集い、
人々のしあわせを実現し、
社会に貢献する

JUKI は、技術を創造し、
進化させ、
新しい価値を
生み出す

経営基本方針

総合品質経営を推進する

柔軟で芯の強い人と
組織をつくる

国際社会に適合する
経営を行う

社員行動指針

お客様の立場にたって考え、
スピーディーに行動する

自らの目標をたて、役割を
果たし、それをさらに広げる

誠実な国際人として
行動する

■ JUKI 企業行動規範

JUKIは、企業理念を実現するため、ここに「企業行動規範」を制定します。

JUKIは、この行動規範に則り、全ての法律、国際ルールおよびその精神を遵守するとともに、社会的良識をもって行動します。

JUKIは、公正な競争を通じ会社の利益を追求するのみならず、顧客、株主、取引先、社員にとってはもちろんのこと、広く社会にとっても、存在価値のある企業を目指します。

- 1 社会的に有用な製品・サービスを安全性や個人情報・顧客情報の保護に十分配慮して開発、提供し、消費者・顧客の満足と信頼を獲得するように努めます。
- 2 商取引においては公正、透明、自由な競争を行い、また政治、行政とは健全な関係を保ちます。
- 3 株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示します。
- 4 社員一人ひとりの多様性、人格、個性を尊重すると共に、安全で働きやすい環境を確保するように努めます。
- 5 地球環境を大切にし、資源の有効活用、資源のリサイクル、省エネルギーに積極的に取り組みます。
- 6 よき企業市民として、地域社会との交流を深め、地域の社会活動への参加等を通じて、広く社会貢献に努めます。
- 7 社会の秩序や企業の健全な活動に悪影響を及ぼす反社会的な個人・団体には毅然たる態度で対応します。
- 8 国際的な事業活動においては、国際ルールや現地の法律の遵守はもとより、その文化や慣習を尊重し、現地の発展に貢献するように努めます。

万一、「企業行動規範」に反するような事態が発生したときには、経営トップは、断固として責任ある対応をします。

「Mind & Technology」と「お客様第一主義」の実践で 社会から信頼され、必要とされる企業を目指します

米国経済が昨年後半から順調な回復をみせ、欧州はユーロ圏の財政危機が緩和されつつあります。国際関係の地政学的リスクは残っているもののアジア新興国も総じて緩やかな成長となる見通しです。JUKIは2013年、「JUKI構造改革プラン」を全社一丸となって実行し、早期に業績回復を果たしました。本年は持続的な成長が可能となる事業基盤の再構築に取り組んでいます。

その推進力となっているのは、コーポレートスローガン「Mind&Technology」の思想です。私たちは「ものづくり企業」として、企業理念にある「人々のしあわせを実現し、社会に貢献すること」を目指し、お客様から学び、お客様とともに新たな価値をつくっていく、というお客様視点で製品・サービスの提供をし続けています。

環境については、2001年に本社と大田原工場にISO14001を取得して以来、約10年をかけて、すべての国

内・海外製造グループ会社でISO14001を取得しました。2008年に開始した「JUKIエコプロダクツ認定制度」も定着し、JUKIの新製品のほとんどが環境配慮製品になりました。社会的に環境への取り組みが一層求められている中で、これからも「環境の視点」を含めた本来業務の遂行を継続して推進し、環境パフォーマンスとしての成果を着実に積み上げてまいります。

JUKIは昨年12月に創立75周年という節目を迎えました。世界でトップブランドを有するグローバル企業として、25年後の100周年に向けて、さらに21世紀を生き抜くことができる強い企業の実現をめざして、しっかりとした事業基盤を構築すべく経営に当たります。併せて、環境配慮をはじめとする持続可能な社会への貢献を目指してまいります。今後とも、より一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。

JUKI 株式会社
代表取締役社長

清原 晃



高い技術が生み出す高品質な製品を提供し、世界各地で豊かな社会の実現に貢献しています

JUKI株式会社 会社概要

創立	1938年12月15日
資本金	159億50百万円
株式	発行済株式総数 129,371千株 株主数 10,698名 東京証券取引所第一部上場 決算期12月
売上高	523億円 (2013年12月期)
主要事業所	本社 〒206-8551 東京都多摩市鶴牧2-11-1 大田原工場 〒324-0011 栃木県大田原市北金丸1863
従業員数	778名

JUKIグループ グループ概要 (2013年12月末現在)

連結子会社数	32社
売上高	944億円 (2013年12月期)
従業員数	5,872名
事業セグメント	縫製機器、産業装置、その他

事業紹介

縫製機器事業

世界のアパレル(衣料)生産を支える工業用ミシン

アパレルだけでなく、靴、靴、家具、自動車シートなどの製造分野で広範囲に活用されています。世界約170カ国をカバーする販売・サービスネットワークで世界中のお客様から強い支持をいただいています。

ハイグレードな縫製機能が豊かなソーイングライフを実現する家庭用ミシン

実用ミシンからキルト縫いなどに適した機種、そしてプロの方の厳しい要求にも応える職業用、小型ロックミシンまで、幅広い層のお客様からの支持をいただいています。

産業装置事業

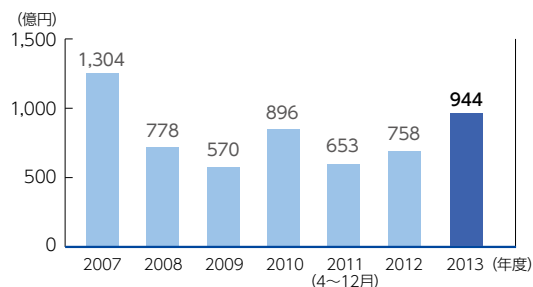
モジュラーマウンタのパイオニア

現在広く普及しているモジュラー方式(複数台のマウンタを接続してラインを構築する方式)を業界で初めて提唱しました。高速機「FX-3R」をはじめ、低価格チップマウンタから汎用機まで幅広い品揃えと充実したサポート・販売体制で、全世界のお客様から高い支持をいただいています。

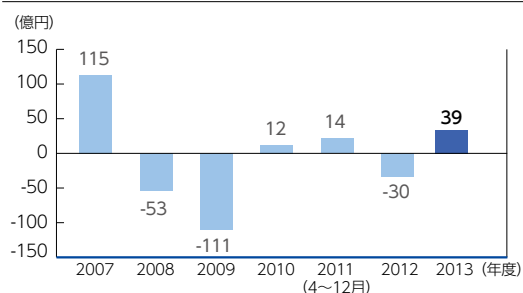
主なグループ会社 ● 製造会社 ● 販売会社など

● 重機(中国)投資有限公司(中国 上海)	● ジューキ・マシナリー・ベトナム(株)(ベトナム ホーチミン)	● JUKI電子工業(株)(秋田県 横手市)
● ジューキ香港(株)(中国 香港)	● ジューキ・マシナリー・バングラデシュ(株)(バングラデシュ ダッカ)	● JUKI吉野工業(株)(秋田県 横手市)
● 東京重機国際貿易(上海)有限公司(中国 上海)	● ジューキSMTアジア(株)(タイ チョンブリ)	● JUKI秋田精密(株)(秋田県 大仙市)
● 新興重機工業有限公司(中国 河北省)	● ジューキ・セントラルヨーロッパ(株)(ポーランド ワルシャワ)	● JUKI会津(株)(福島県 喜多方市)
● 重機(上海)工業有限公司(中国 上海)	● ジューキ・イタリア(株)(イタリア ミラノ)	● (株)鈴民精密工業所(新潟県 長岡市)
● 上海重機ミシン有限公司(中国 上海)	● ジューキ・アメリカ(株)(アメリカ フロリダ)	● JUKI金属(株)(三重県 多気郡)
● 重機(寧波)精密機械有限公司(中国 浙江省)	● ジューキ・オートメーションシステムズ(株)(アメリカ ノースカロライナ)	● JUKI広島(株)(広島県 三次市)
● ジューキ・ベトナム(株)(ベトナム ホーチミン)	● ジューキ・オートメーションシステムズ(株)(スイス ソロトゥルン)	● JUKI松江(株)(島根県 松江市)
● ジューキ・シンガポール(株)(シンガポール サイバーハブ)	● ジューキ・ド・ブラジル(株)(ブラジル サンパウロ)	● JUKIオートメーションシステムズ(株)(東京都 多摩市)
● ジューキ・インド(株)(インド バンガロール)		● JUKI販売(株)(東京都 多摩市)
		● JUKIゼネラルサービス(株)(東京都 多摩市)

売上高(連結)

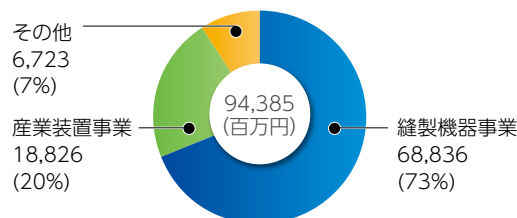


経常利益(連結)



当社は2011年度より、当社グループの連結ベースでの予算編成や業績管理等、事業運営の効率化等を図るため、連結決算日を毎年12月31日に変更しました。これに伴い、その経過期間となる2011年度は、2011年4月1日から2011年12月31日までの9カ月決算となっています。

セグメント別業績 売上高(2013年度)



ガバナンス体制の充実、コンプライアンスの強化に努め、透明性の高い経営を目指します

コーポレート・ガバナンス

JUKIは、経営の健全性・効率性を確保する観点から、コーポレート・ガバナンス体制の適切な維持・運用を最重要課題のひとつと位置づけ、その整備と充実に努めています。2014年3月に社外取締役を1名から2名に増員し、取締役および取締役会の経営監視機能を高め、社外からの意見を積極的に取り入れる体制を強化しています。経営戦略会議には、取締役をはじめ、執行役員や部門責任者も出席し、経営に関する基本方針などについてさまざまな角度から審議しています。内部監査の組織としては、監査部を設置し、各部門および子会社の業務監査を行っています。また、監査役監査は、監査役会が定めた監査方針、業務分担等に従い、監査部および会計監査人と相互連携を取りながら実施しており、監査役を補佐する組織として監査役室を設置しています。

リスクマネジメント

JUKIグループではリスク管理体制として、リスク管理会議を設置しています。リスク管理会議においては、全社的リスクおよび重要リスクについて管理し、必要な場合はリスク低減のための改善対策を取ることを指示しています。また、天災、火災や爆発、PL（製造物責任）に関わる問題、工場廃水による環境問題などの危機の発生（リスクの顕在化）に備え、危機対応タスクフォースを設置し、対応措置を検討、実行できる体制を整備しています。また、重大な危機が発生した場合は、「危機対策本部」を設置し、迅速な危機対応ができる体制となっています。

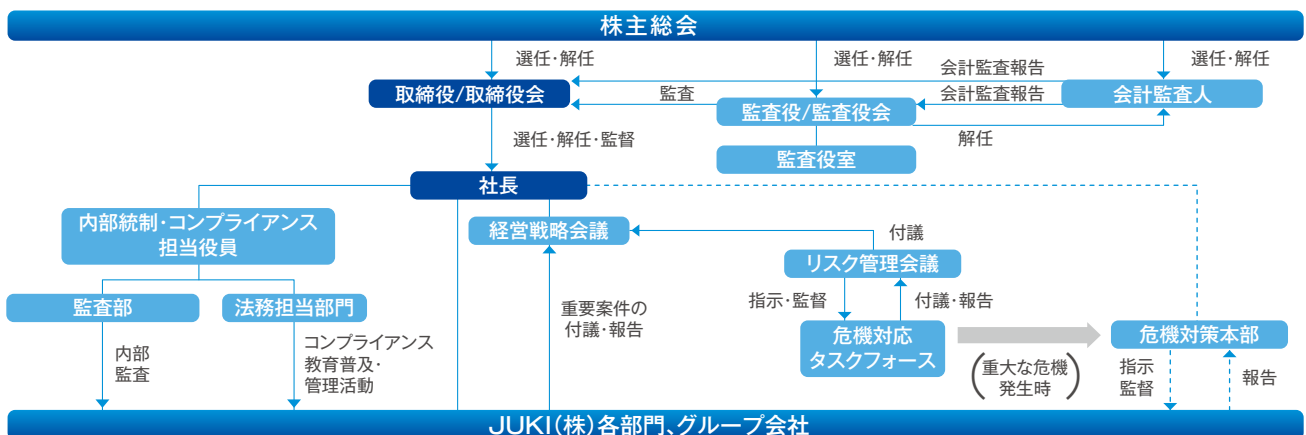
金融商品取引法への対応

財務報告の信頼性確保を目的として、2008年4月より、金融商品取引法に基づく「内部統制報告制度」が導入されました。JUKIはこの対応として、金融庁の基準などに示されている内部統制の基本的枠組みに準拠し、財務報告の信頼性に係る内部統制を整備、運用しています。具体的には、毎事業年度末におけるJUKIグループの全社的な内部統制について、整備、運用状況の有効性評価を実施しています。さらに同制度に基づき、JUKIおよび国内外の主要なグループ会社を対象として、販売、生産、経理、ITなどの業務プロセスの内部統制について有効性の評価を実施しています。2014年度は、2013年度を継承する中で、一層効率的で漏れの無い評価を実施してまいります。

コンプライアンス

JUKIグループは、お客様をはじめとして広く社会の皆様から信頼され、社会にとって存在価値のある企業グループであり続けることを目指して、コンプライアンスを重要な経営基盤と位置づけています。JUKIの従業員はもちろんのこと、グループ会社の役員および従業員は、法令順守や良識を持った行動などについて解説されている「JUKI役員・社員行動規範」に則って行動するよう、教育で徹底するとともに、従業員からの相談・疑問などに対しては、JUKIおよびグループ会社に相談窓口を設置して迅速に対応しています。また、コンプライアンスに関わる重要なリスクについては、リスク管理会議において管理しています。

コーポレート・ガバナンス体制図



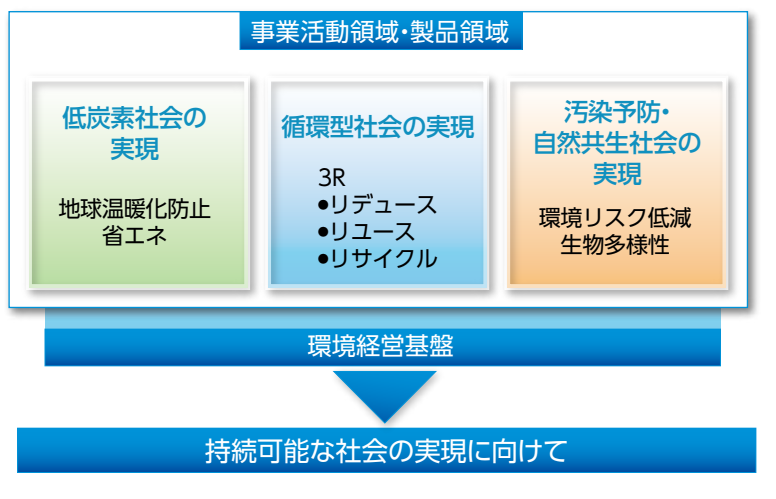
環境に配慮したものづくりを通じて、 お客様、地球環境に貢献していきます

JUKIグループでは、ものづくり企業として地球環境を大切に、資源の有効活用、リサイクル、省エネルギーに積極的に取り組み、安全で環境負荷の少ない製品をお客様に提供し、地域の産業発展に貢献することで、お客様をはじめとして広く社会の皆様から信頼され、社会にとって存在価値のある会社であり続けることを目指します。

環境ビジョン

JUKIグループ環境保全活動の考え方

JUKIグループでは各事業に伴う環境負荷を低減し、持続可能な社会の構築を目指して「環境理念」「環境行動指針」を定めています。これに基づき、「環境保全ガイドライン」を策定しています。また、情報交換ならびに水平展開を行い、グループ全体のレベルアップを図っています。



ECO MIND経営

環境理念

JUKIグループは、企業活動が広く地球環境と密接に関わっていることを認識し、

1. 環境に配慮した企業活動により、地域と社会に貢献する。
2. 環境にやさしい製品を世界の人々に提供する。
3. 持続的な活動を通じて、よりよい地球環境を次世代にひきつぐ役割を果たす。

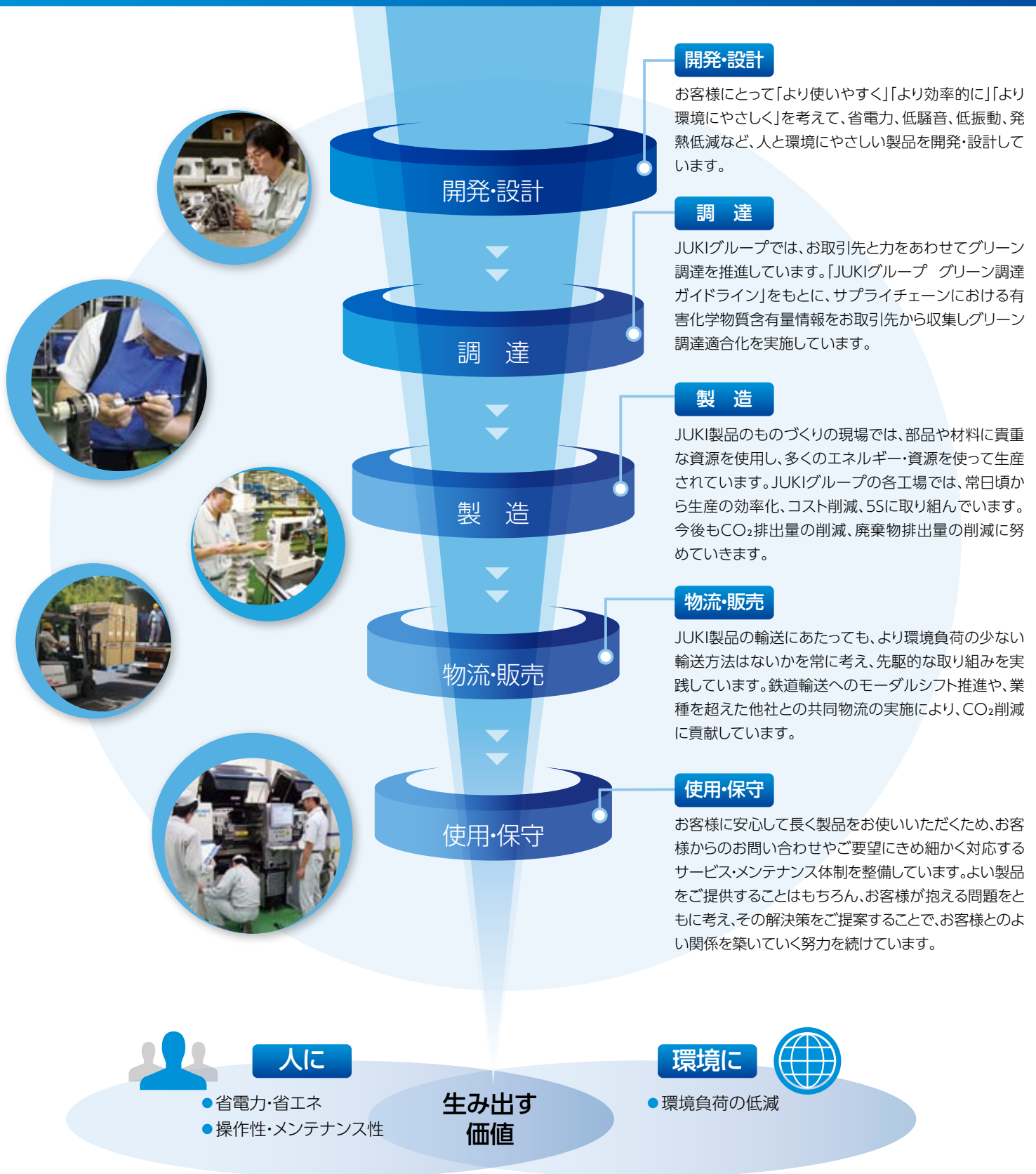


環境行動指針

1. 事業活動全般にわたって省エネルギーを推進し、地球温暖化防止に努める。また3R (リデュース・リユース・リサイクル) の実践により資源の有効利用を図る。
2. 環境への影響に配慮した企画、研究、開発、調達、生産を行い、より環境負荷の少ない製品を提供する。
3. グローバル企業として、事業展開する全ての国や地域の特性に応じた環境保全活動を通して、その国や地域に貢献する。
4. 環境関連法規制及び同意するその他の要求事項を順守するとともに、環境汚染を予防する。
5. 環境情報の公開を積極的に行う。
6. 教育・啓発活動を通じ、社員一人ひとりには「環境意識」の向上を図り、環境保全活動を実践する。

バリューチェーンを通じて、人に、地球にやさしく、 価値ある製品・サービスの提供に努めています。

ものづくり企業として、より環境負荷の少ない製品・サービスを提供することだけでなく、バリューチェーンすべてにわたり、環境に配慮した活動が社会から求められていることを理解し、日々の事業活動に取り組んでいます。



バリューチェーンを通じて、人に、地球にやさしく、 価値ある製品・サービスの提供に努めています

開発・設計

環境に配慮した設計 (LBH-1790A)

環境に配慮した製品開発を行うために、設計初期段階から重点実施項目を設定し強化対象項目の対応を実施しています。

LBH-1790Aでは、輸送負荷の軽減として小型新制御ボックスを採用することで20fコンテナ換算で積載量を約1.7倍に改善(梱包ダンボール体積を0.104m³から0.062m³に縮小)。また消費電力の低減を重点項目として待機電力を60%低減、平均消費電力は25%低減を実現しました。さらに使用部品数の低減など、環境に配慮した製品開発を進めました。



小型新制御ボックスの梱装箱(左側)と従来品(右側)

お客様の声を活かした開発 (AMS P/S特注)

AMS P/S (パーフェクト/ステッチ)仕様は、市場からの要望が年々高まってきており、デザイン性の重視されるさまざまなトップステッチに使用されます。それゆえにお客様のご要望のレベルは非常に高く、多種多様であり、これまでの経験だけでは分からないご要望がたくさんありました。まだまだお客様のご要望全てにお応えできるマシンではありませんが、一つ一つ丁寧にお客様の声を聴き、必要とされるマシンを開発していきます。



仕様確認のためのお客様とのディスカッション

お客様の声を活かした開発 (JM-20)

手挿入工程において、「賃金が上昇する」「労働者が集まらない」「品質が安定しない」といったお客様の声に応えるため、SMT後工程の自動化設備としてJM-20を開発しました。これまでのJM-10に比較して、大型部品、背高部品、重量部品、大型基板への対応力を向上させ、部品挿入ミスを検知する機能を開発して標準装備しました。

今後も、対応力の向上と品質向上機能によってSMT後工程の自動化範囲を拡大し、お客様の要望に応じていきます。



手挿入工程の自動化を実現したJM-20

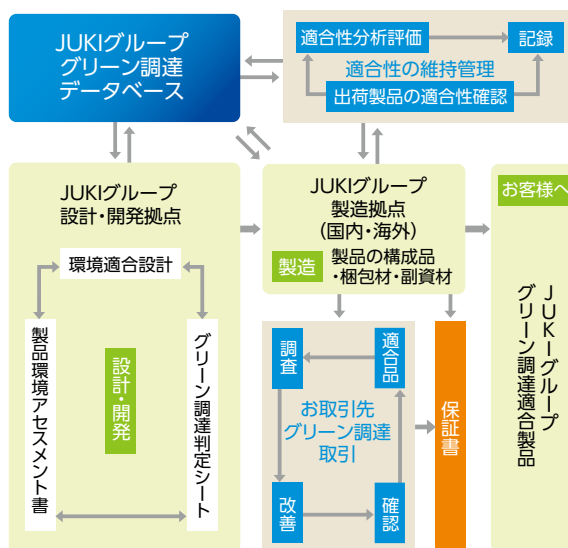
調達

グリーン調達

JUKIグループでは、「ECO MIND宣言」に基づいて、地球環境にやさしい環境保全活動を資材お取引先様とともに、環境負荷の少ない材料・部品・製品等を優先的に調達・購入する有害化学物質の削減に取り組んでいます。2011年からは物質管理の手段として、サプライチェーンを基本にした業界標準のJAMP AIS調査ツールを取り入れて、国内外の拠点で活動を展開しています。また、製造拠点においては、それら入荷時の有害化学物質分析を行うことで、万一の有害物質混入を防いでいます。

今後も法規制強化など環境問題に対する企業活動の社会的責任および要求は高まり、重要な位置づけと考えていることから、欧州REACH規制やCLP規則などの追加管理対象物質に対応した出荷品の適合活動を行いつつ、各国規制の拡大に対応していきます。

グリーン調達の流れ



製造

化学物質の管理

JUKIグループでは、国内・海外グループ会社の製造工場にて、有機溶剤や溶剤・粉体塗料等の化学物質を使用しています。化学物質使用量の低減および化学物質含有廃棄物排出量を低減し、環境影響に配慮した取り組みを進めています。

(株)鈴民精密工業所では、2013年12月にJUKI(株)大田原工場の専門スタッフを招き、「禁止物質教育訓練」を実施しました。社内関係者16名が受講しました。

化学物質使用量データ (2013年度)

本社ビル集計	全化学物質		
	調達実績量(kg)	使用実績量(kg)	保有量(kg)
	2,923.2	2,416.0	2,169.9
本社ビル集計	PRTR 法該当物質		
	調達実績量(kg)	使用実績量(kg)	保有量(kg)
	184.6	148.3	46.1
法規判定	非該当		
本社ビル集計	適正管理化学物質		
	調達実績量(kg)	使用実績量(kg)	保有量(kg)
	51.2	33.9	52.1
法規判定	非該当		

TOPICS

[JUKI会津(株)、JUKI吉野工業(株)、JUKI広島(株)]緊急事態模擬訓練の実施

JUKI会津(株)では、重油や化学物質の漏洩等の工場災害を想定した緊急事態対応訓練を、職場単位で毎年実施しています。従業員の安全はもちろん、近隣住民への災害を拡散しないように取り組んでいます。

JUKI吉野工業(株)では、汚染物質排出における環境汚染防止に向け、灯油設備からの漏洩事故を想定し緊急事態模擬訓練を年1回実施しています。土嚢を使った塞き止、吸着材による汚染拡大防止処置、緊急連絡網等に関連する手順の確認で有効性を高めています。

JUKI広島(株)では、絞り油、切削油等さまざまな油を台車で危険物庫へ取りに行きます。その際に、台車を横転させて油を雨水側溝へ流してしまったと想定して緊急事態模擬訓練を実施しました。当社敷地内から一滴も油は流出させないと、目標をもって取り組んでいます。



JUKI広島での緊急事態模擬訓練

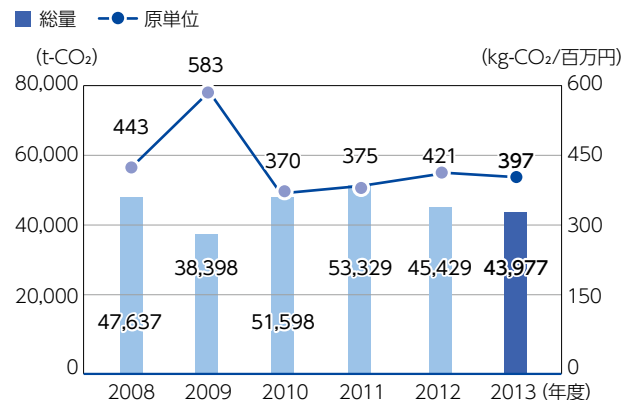
バリューチェーンを通じて、人に、地球にやさしく、
価値ある製品・サービスの提供に努めています

CO₂排出量の削減

JUKIグループではCO₂排出要因の7割以上を占める電力使用量を削減するため、生産方法や設備稼働時間の見直しをはじめ、さまざまな取り組みを行っています。生産段階でのCO₂排出削減を行うことは、すなわちコスト削減・生産効率向上に寄与することにもつながります。

大田原工場の省エネへのアプローチとしては、現状の設備等の運用や稼働状況を見直し、そこにあるムダを顕在化して改善する取り組みが主流となっています。最近での実施例では、排水処理設備の間欠運転機能が故障していたため、長い間手動運転が当たり前になっていたものを修理して間欠機能を復帰したことで、年間で約40,000kWhの使用電力削減ができました。

CO₂排出量と原単位



TOPICS

[JUKI秋田精密(株)]製造部門での新工法およびムダ取り改善の推進と実績の見える化による工数削減の実施

JUKI秋田精密(株)では、バリ取り工程の機械化とベンダー加工での多数個曲げにより、効率的な生産ができるようになりました。

改善前はタレットパンチプレス加工後に、部品を1個ずつバラし、曲げ、その後外周のバリ取りをしていましたが、改善後はタレットパンチプレス加工後に、200個まとめてバリ取り機で加工し、10個まとめて曲げることで加工工数を大幅に削減することができました。今後も、工法の改善により工数の削減に取り組んでまいります。



バリ取り機によるバリ取り



10個まとめた曲げ加工

TOPICS

[重機(寧波)精密機械(有)]システム導入による生産性の向上

重機(寧波)精密機械(有)では、部品メーカーへの部品発注の納期進捗一元管理の向上を目的として、2014年3月よりWEB回線を使用するODQシステム(Order-Delivery-Query-System)を導入しました。

部品メーカーでは、受注状況がタイムリーに把握でき、納期回答も従来の電話、FAXからネット上での回答が可能となりました。

今後もODQシステムを活用することで、部品の納入状況、検査状況をタイムリーに把握し、お客様への早期の納期回答、納期遵守を推進します。

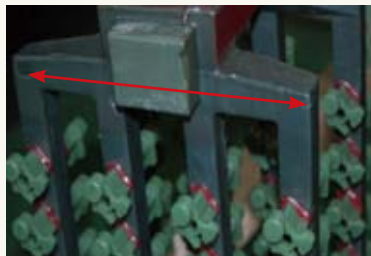


ODQシステムの画面

TOPICS

[JUKI会津(株)]不良コスト削減、鑄込み重量の適正化
および配合比率改善による主材料削減

JUKI会津(株)では、製造工程で使われるワックスを減量化することにより、鑄込み重量が軽減化され、主材料である金属材料費の削減に繋がりました。ロストワックス製法のツリー組立時(写真参照)に巾を10mmでも狭くすることができる種類を日々確認し、削減に取り組んだ結果、距離にして年間約160m分のワックスの減量となり、それに付随して主材料も約40万円削減することができました。



巾を狭くすることで主材料の削減に繋がる

省資源への取り組み

グループの各工場や事務所から排出される廃棄物の削減や、日々の事業活動の中で、3Rの省資源活動を継続しています。

JUKI電子工業(株)では、試作や検査工程から発生し、産業廃棄物として処理されていた電子回路基板や電子部品(ICなど)、電線・コネクター類の分別処理基準を見直し、金・銀・銅・レアメタル等の有用資源を回収し、資源循環に乗せる取り組みを行っています。この活動により「3R」の促進が図られると共に、廃棄物の減量化、処理費用の低減も実現しています。



【改善前】混合廃棄物用バケツ



【改善後】電線類、コネクタ、基板、半導体などを分別して有価物(再利用)に

ものづくり技術部の発足

JUKIは、企業理念の一つに「技術を創造し、進化させ、新しい価値を生み出す」ことを掲げ、常にお客様の視点に立って、世界中に製品をお届けしています。

そうしたものづくりへの想いをより一層具現化するために、2013年10月に「ものづくり技術部」が組織化されました。

開発や生産技術、製造、調達などの組織間の壁を無くし、より付加価値の高い製品をスピーディーに世に送り出していくという使命を持っています。



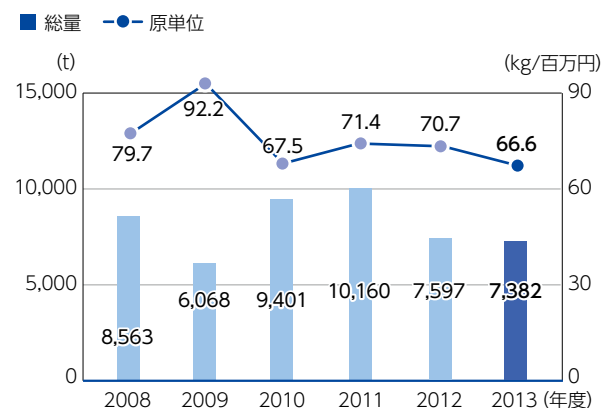
バリューチェーンを通じて、人に、地球にやさしく、
価値ある製品・サービスの提供に努めています

廃棄物の削減

ものづくりの現場では、多くの生産設備を稼働させ、多くの原材料を使用し、熱源エネルギーを消費して日々生産活動を行っています。その過程で排出される廃棄物量を低減すべく、JUKIグループの製造拠点では、廃棄物自体を削減する取り組みや、排出廃棄物のリユース・リサイクルとして有価取引を推進する等、さまざまな取り組みを行っています。

JUKI金属(株)では、県からの普及活動を受け昨年10月より電子マニフェストを導入しました。これにより、データ管理の透明化、法令順守の徹底、事務処理の効率化へとつながっています。

廃棄物量の削減



TOPICS

[新興重機工業(有)] 国外調達の子品の現地調達化 [重機(上海)工業(有)] 廃棄油量の低減対策

新興重機工業(有)では、資源の有効利用と廃棄物削減を目的に、中国のJUKIグループ会社間で実施していた通い箱を部品供給のお取引先にも広げました。10種類以上の通い箱を追加し、30種類の通い箱を使用しています。今後は箱のサイズなどを共通化するなどして物流工程の改善にも取り組んでいきます。

重機(上海)工業(有)では、自社製造工程で発生した廃油を、専用の濾過機で処理し不純物を取り除き、粘度調整後に機械加工工程の刃先に塗布し再利用しています。2013年度は578kgを回収し廃棄物削減に結び付けています。



通い箱化の推進



廃油の再利用

TOPICS

[上海重機マシン(有)] 水質汚染の防止 [重機(上海)工業(有)] メンテナンスによる汚水処理能力の維持 [JUKIベトナム(株)] 定期排水分析と処理槽の定期清掃

上海重機マシン(有)では、水質汚染を防止するために、污水監測松中水環境職員技術協会により、年4回水質のサンプルを取り、水質監査を行っています。

重機(上海)工業(有)では、汚水処理能力を維持するために日常のメンテナンス業務を欠かしません。今年は老朽した工業廃水PVC還流管の交換や工業用オイルトラップと凝集池の外壁に対して防錆処理を実施しました。

JUKIベトナム(株)では、立地している輸出加工区、および環境局制定の規定に則り、排水基準を順守しています。その基準は年々厳しさを増していますが、自主的な定期排水分析、処理槽の定期清掃を通じ対応しています。



JUKIベトナムでの排水分析計量測定

物流・販売

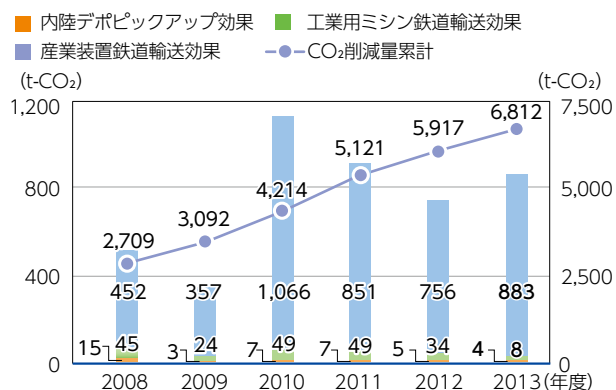


CO₂、梱包資材の削減 (新たな梱包材の採用による梱包材料の削減)

工業用ミシンの製品梱包において、緩衝材である発泡材料を発泡スチロールから発泡ポリエチレンに変更することで落下時の緩衝効果を高め、梱包サイズを縮小することが可能となり、その結果使用段ボールの削減もできました。これにより海上コンテナの積載台数が30%以上増加、輸送効率を高めることによってCO₂削減に繋がりました。

今後、各海外生産拠点の製品梱包についても、見直し実施を予定しています。

輸送時のCO₂削減量



TOPICS

[重機(寧波)精密機械(有)]通い箱の使用、海外部品の国内調達化 [上海重機ミシン(有)]運送ルート最適化(最短距離、カーシェア)

重機(寧波)精密機械(有)では、各仕入先から定期的に納入されるものに対し、廃棄物量の削減、資源の無駄使い解消を目的にダンボールから折りたたみ式プラスチック通い箱へ随時変更しました。中国、国内のみならず、海外への出荷品に対しお客様での出荷梱包材処理の削減とCO₂削減



ダンボール

折りたたみ式プラスチック通い箱

減に取り組み、地球にやさしい環境づくりに貢献しています。

上海重機ミシン(有)では、物流については、製品の運送面だけでなく、部品の運送も他社との共同物流を実施し、通勤バス、事務業務の面も当日に各部門外出人員の路線を検討して、最善ルートで、より環境負荷のすくない運送方法を使用し、CO₂の削減に貢献しています。



通勤バスによるCO₂削減

使用・保守

縫製機器事業

縫製機器事業では、お客様に工業用ミシンを販売するだけでなく、お客様にJUKI製品をより効果的にご使用いただくためのサービスを提供する縫製研究所を設立し、約50年にわたり活動してきました。設備導入前、環境に配慮したミシンの選定および効率良いミシンレイアウトをプラント設計してご提案。また長年の活動で蓄積されたノウハウを活かし、現場のムダを省く顧客担当者向け実地研修を実施しています。



チュウジア共和国(チェニス)での講習会

産業装置事業

JUKIオートメーションシステムズ(株)では、2013年度からマウンタのRX-6、RX-7、印刷機のRP-1、検査機のRV-1など新機種の販売を開始しました。これらの装置は、これまでと異なったテクノロジーを採用しており、海外販社、日本サービス員への教育を開発部とトレーニングセンターが実施し、装置をご購入いただいたお客様工場のスムーズな生産立ち上げが実施できるよう努めています。

また、既存機においても日本、台湾のお客様より点検契約、定期メンテナンス作業のご注文をいただき、製品の安定稼働、長期活用にも努めています。



サービスマンレベルアップ教育

— JUKIの Mind & Technology —

人に、地球にやさしく、 高付加価値化を目指す製品づくり

2013年度の「JUKI ECO PRODUCTS」

JUKIでは製品ライフサイクル全般において、環境に配慮した製品作りを行っています。

操作性・メンテナンス性の向上、高い性能の追求と、省電力・省エネの同時追求など、開発段階で環境に関する38項目の評価を行い、その結果、特に高いレベルで環境配慮を実現した製品を「JUKI ECO PRODUCTS」として認定しています。

主な2013年度の「JUKI ECO PRODUCTS」をご紹介します。

主なアセスメント項目

	材料・物品調達段階	製造・流通段階	使用段階	リサイクル・廃棄段階
環境安全・健全性	有害物質の排除・削減		騒音・振動の低減	環境負荷物質の分離容易性
省資源化	原材料の減量化 リサイクル材料の活用		長期使用性	
省エネ化		輸送効率の向上	消費電力の削減 消耗剤の消費量削減	
リサイクル性				再資源化 分離・分別容易性

LZ-2280A

高速回転でソフトなステッチを実現する高速一本針本縫千鳥縫ミシン。針振り機構に三角カムを採用。針流れを防止し、安定した美しい縫い目を実現しました。



MO-1000シリーズ

2本針・2/3/4本糸(差動調節付き)オーバーロックミシン。新機能のイージースレッダーを採用。電動モーターから送られる力強い風の方で、糸通し穴からルーパー穴までカンタンにシュッと糸が通ります。



LK-1900Bシリーズ

高速電子閉止めミシン。最高縫い速度3,200sti/min、縫い始め・縫い終りの高速立ち上げ、立ち下げ、糸切り速度および自動押上げ動作の高速化により、トータルサイクルタイムを大幅に短縮しました。



RX-6

高速コンパクトモジュラーマウンタ。高い生産性、汎用性、高品質をあわせ持つ新型のマウンタで、横幅1.25mの省スペース設計。プレースメントモニタ検査機能を標準装備してさらなる高品質生産を実現しました。



AMS-221ENTS3020

入力機能付き電子サイクルマシン。針棒切り替え方式による2色縫い(糸2種類)縫製が可能になりました。スポーツシューズ、バッグ、カーシートの飾りステッチや部品付け縫製などに適します。



JX-300LED

LED専用マウンタ。LED照明機器や中・大型液晶バックライト生産に最適なマウンタで、1,500mmまでの長尺基板生産に対応が可能です。JUKIが誇るレーザ認識技術で、高精度・高品質な生産性を実現しました。



環境マネジメント

グループ各社の環境推進体制のもと、環境活動への取り組みを推進、継続的な改善を図っています

環境マネジメントの推進

JUKIグループでは、本社を含むグループの環境目標については、会社の最高意思決定機関である「経営戦略会議」で討議・決定しています。これらの目標展開や方策実施、環境保全活動の実行力を向上させるために、各グループ会社の環境担当部門が責任を持って活動しています。

また、大田原工場では、2013年度より、ISO14001とISO9001の複合認証に切り替え、環境と品質のマネジメントレベルの向上につなげています。

ISO14001取得状況

昨年受賞しました日本規格協会の「マネジメントシステム永年登録表彰」を受けて、今年は審査登録交流会において、記念講演をさせていただきました。JUKIのEMS10年間の歩みと、ここ数年前より取り組んでいる本来業務におけるEMS活動について講演し、業績につなげるEMS活動の方向性を提案、参加者から実質的な取り組みであると評価されました。

TOPICS

〔重機(上海)工業(有)〕 「植樹デー」、「毎月22日に車を 使わない活動」をはじめとした環境活動

重機(上海)工業(有)は、2010年より社内環境委員会の主導で、4年連続で「植樹デー」に植樹活動を行っています。今年は、2月に「エコ通勤・毎月22日に車を使わないよう」をテーマとした活動を開始しました。社内のマイカー通勤者のほとんどが協力してくれたおかげで、3月より試行してからずっと継続して実施されています。この二つの活動を通して、CO₂削減はもちろん、全社員の環境保護意識の向上を目指しています。



植樹活動に参加した従業員

内部監査と外部審査

JUKIグループではISO14001を取得しているグループ会社において、各社のマネジメントシステムが有効に機能しているかどうかを、内部監査と外部審査の双方によって確認しています。内部監査の手法として、被監査部門自ら監査を実施する自己監査を取り入れておりますが、2013年度はさらに監査チェックシートの雛形を見直して、自己監査、監査員による内部監査業務の効率化を推進しました。

法規制の順守

グループワイドの取り組みとして昨年の中国に続き、本社スタッフがベトナムの製造会社を訪問し、環境関連法規の順守について現地確認を実施しました。実務レベルでの根拠と順守状況を確認しています。

JUKIベトナム(株)の環境関連法は大枠で19項目の法規について合否を判定しています。法規によっては日本国内より厳しい基準が設けられており源流工程から下流工程まで、安全な作業、工程品質、環境保全を意識する標準書を作成、掲示し各工程の作業を進めています。廃棄物集積場に廃棄物ラベルを表示し、色別管理したビニール袋を常設し分別の徹底を図っています。また、廃棄物の有害性、無害性を分析し、処分方法と処分先を決めています。



色別管理したビニール袋により分別を徹底

廃棄物ラベルの表示



グループ共通の目標と各事業に即した環境目標を設定しています

JUKIグループの環境目標

環境目標	対象	目標値	結果	2013年度の反省と今後の取り組み
CO ₂ 排出量の削減	国内製造グループ会社	709kg/百万円 (売上高原単位)	679kg/百万円 達成率:104%	【CO ₂ 】 国内・海外製造グループ会社、本社ともに目標値を達成しました。 【廃棄物】 国内・海外製造グループ会社、本社ともに目標値を達成しました。
	海外製造グループ会社	824kg/百万円 (売上高原単位)	739kg/百万円 達成率:110%	
	本社	2,585t-CO ₂ (総量)	2,539t-CO ₂ 達成率:102%	
廃棄物の総排出量の削減	国内製造グループ会社	116t/百万円 (売上高原単位)	111t/百万円 達成率:104%	2014年度も、前年同様グループ全体の製造会社では、原単位目標を掲げ、生産センターが主導しグループ全体の最適化を進めることで、ムリ・ムダを削減していきます。
	海外製造グループ会社	154t/百万円 (売上高原単位)	140t/百万円 達成率:109%	
	本社	54t (総量)	51t 達成率:106%	
グリーン調達	JUKIグループ共通	グリーン調達適合品の出荷・有害化学物質規制違反 0件	違反 0件	グリーン調達不適合は、2012年度に引き続き、2013年度も0件となりました。2014年度も継続して取り組みを行います。
環境法規制の順守		違反件数 0件	違反 0件	

JUKI本社の環境目標

環境目標	対象	目標値	結果	2013年度の反省と今後の取り組み
環境配慮製品への取り組み	新製品の「JUKI ECO PRODUCTS」認定	開発部門	市場導入新機種 商品企画目標達成 100%	2013年度は全ての機種が認定されました。2014年度も継続して取り組みを行います。
	新製品の消費電力削減	開発部門	市場導入新機種 従来機種比削減 100%	

※このデータは、JUKI(株)と国内・海外製造グループ会社の2013年度の環境目標と結果についてまとめたものです。

※JUKI(株)大田原工場のデータは国内製造会社グループ会社に含まれています。

事業に関連する環境負荷を明らかにして 環境パフォーマンスの改善を進めていきます

環境パフォーマンス

	項目	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
JUKI	CO ₂	3,309 t-CO ₂	2,849 t-CO ₂	2,769 t-CO ₂	2,539 t-CO ₂
	電力	5,039 千kWh	4,427 千kWh	4,260 千kWh	4,023 千kWh
	灯油	0.3 kℓ	0.3 kℓ	0.6 kℓ	0.3 kℓ
	A重油	0 kℓ	0 kℓ	0 kℓ	0 kℓ
	都市ガス	192 千m ³	134 千m ³	133 千m ³	100 千m ³
	ガソリン	48 kℓ	44 kℓ	45 kℓ	35 kℓ
	水	13 千m ³	11 千m ³	12 千m ³	11 千m ³
	排水	22 千m ³	21 千m ³	22 千m ³	20 千m ³
	廃棄物最終処分量	0 t	0 t	0 t	0 t
	廃棄物等総排出量	105 t	57 t	50 t	51 t
国内製造グループ会社	CO ₂	28,402 t-CO ₂	26,737 t-CO ₂	22,781 t-CO ₂	20,647 t-CO ₂
	電力	36,550 千kWh	35,153 千kWh	32,632 千kWh	29,637 千kWh
	灯油	202 kℓ	193 kℓ	182 kℓ	154.00 kℓ
	A重油	2,276 kℓ	1,996 kℓ	1,118 kℓ	1,056 kℓ
	液化石油ガス (LPG)	386 t	368 t	319 t	239.00 t
	ガソリン	64 kℓ	59 kℓ	55 kℓ	52 kℓ
	軽油	49 kℓ	42 kℓ	40 kℓ	43 kℓ
	アセチレン	65 kg	86 kg	122 kg	50 kg
	コークス	0 kg	0 kg	0 kg	0 kg
	メタノール	0 kg	0 kg	0 kg	0 kg
海外製造グループ会社	CO ₂	19,887 t-CO ₂	23,743 t-CO ₂	19,879 t-CO ₂	20,791 t-CO ₂
	電力	29,098 千kWh	34,660 千kWh	30,114 千kWh	31,481 千kWh
	灯油	0 kℓ	2 kℓ	2 kℓ	0.9 kℓ
	都市ガス	0 千m ³	0 千m ³	0 千m ³	0 千m ³
	液化石油ガス (LPG)	839 t	1,054 t	752 t	815 t
	ガソリン	111 kℓ	120 kℓ	93 kℓ	86 kℓ
	軽油	325 kℓ	361 kℓ	231 kℓ	220 kℓ
	アセチレン	24 kg	24 kg	24 kg	24 kg
	天然ガス (NG)	49,598 Nm ³	69,505 Nm ³	50,717 Nm ³	46,929 Nm ³
	水	347 千m ³	320 千m ³	235 千m ³	252,566 千m ³
排水	312 千m ³	281 千m ³	227 千m ³	224 千m ³	
廃棄物最終処分量	1,557 t	1,486 t	1,564 t	1,686 t	
廃棄物等総排出量	4,192 t	4,582 t	3,542 t	3,944 t	

※このデータは、P4に掲載したJUKI(株)と製造グループ会社のパフォーマンスについてまとめたものです。
 ※JUKI大田原工場のデータは国内製造グループ会社に含まれています。

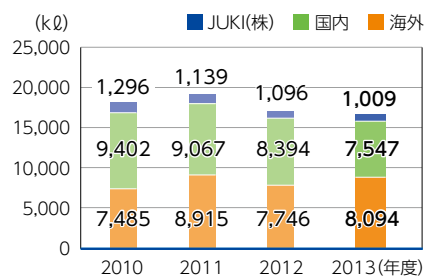
事業活動における環境への影響

2013年度 INPUT	
エネルギー	19,811 kℓ(原油換算)
電力	65,141 千kWh
A重油	1,056 kℓ
軽油	263 kℓ
ガソリン	173 kℓ
灯油	156 kℓ
都市ガス	100 千m ³
液化石油ガス(LPG)	1,055 t
アセチレン	0.074 t
天然ガス(NG)	47 Nm ³
水	510 千m³
原材料	25,703 t
金属材料	22,484 t
プラスチック材料	148 t
ゴム	59 t
紙(事務用OA用紙は除く)	137 t
その他(部品、原材料など)	2,876 t

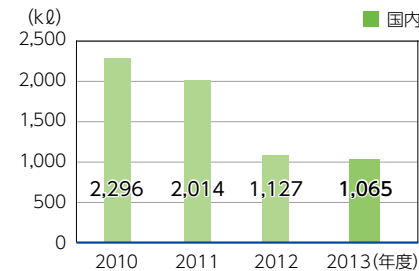
2013年度 OUTPUT	
主要製品生産量	13,953 t
CO₂	43,977 t-CO₂
排水	311 千m³
廃棄物等総排出量	7,382 t
一般廃棄物排出量	756 t
産業廃棄物排出量	6,330 t
特別管理産業廃棄物排出量	296 t
リサイクル量	5,041 t
最終処分量	1,931 t

※このデータは、P4に掲載したJUKI(株)と国内・海外製造グループ会社のパフォーマンスについてまとめたものです。
 ※JUKI大田原工場のデータは国内製造グループ会社に含まれています。

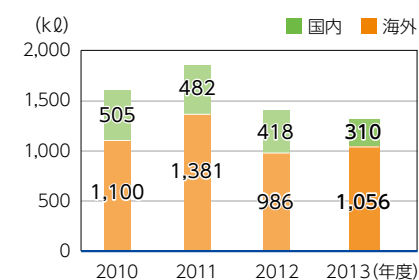
電力(原油換算)



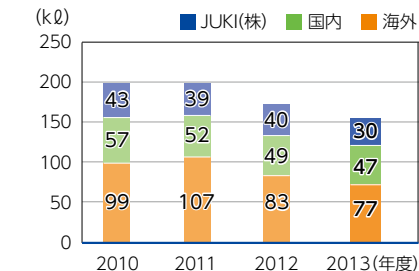
A重油(原油換算)



液化石油ガス(LPG)(原油換算)



ガソリン(原油換算)



ステークホルダーとの良好な信頼関係を築き、責任ある行動を推進していきます

ステークホルダーに充分配慮した企業活動に徹し、互いの利益を実現させること。それが企業価値の向上につながると、JUKIグループは考えています。私たちは、すべてのステークホルダーに必要とされる企業を目指します。

ステークホルダーとの関わり



株主・投資家

財務体質のさらなる改善と株主価値の向上を図るとともに、安定的な配当を実施するよう努めています。また、株主・投資家の皆様とのコミュニケーションを積極的に行うために、企業情報を積極的かつ公平に開示しています。

お客様

JUKIグループが提供する商品やサービスを末永くご利用いただくことで、お客様にとっての生涯価値を最大限に高めることに努めています。お客様と私たちとの間で永続的な信頼の絆を深めていく関係を目指します。

お取引先

お取引先との「共存共栄」という観点から、①公正で公平な競争、②契約順守、③定期的な市況説明、④「JUKIグループグリーン調達ガイドライン」の説明と啓発などを通じ、互いに切磋琢磨し成長していける関係の構築に努めます。

従業員

JUKIグループが目指すのは、国籍・人種・性別を超えて雇用と成長の機会を提供するグローバル企業。事業展開するそれぞれの国で、従業員がいきいきと働ける組織・風土を確立し、ES(従業員満足)の向上を図ります。

社会

良き企業市民として地域社会との交流を深めています。また、国際的な事業活動においては、国際ルールや現地の法律の順守はもとより、その文化や習慣を尊重し、現地の発展に貢献するよう努めています。同時に、環境問題にも真摯に取り組むことで、社会から見ても価値あり魅力ある企業となることを目指します。

お客様/お取引先とともに

お客様の声を事業活動・製品開発に適切に反映して、 お客様満足度の向上に努めています

顧客満足度の追求

縫製機器事業

縫製機器ユニット・CS推進部では、縫製に関りのある皆様に対し「ミシンと縫い」のセミナーを行っています。このセミナーは、生産や流通がグローバル化する中で、よりよい品質を消費者に提供したいというお取引様のニーズから生まれたセミナーです。生産・品質管理の方、商品・デザイナーの方、商社の方などミシンの修理に従事していない方の参加も多くいただいています。これからも安全で安心な消費者の求める魅力ある製品づくりのお手伝いをしていきたいと思えます。

また、品質問題については、お客様のラインをストップさせないことを最優先に心がけ、対策チームを編成して海外各地へ出向き、現地技術者と連携を図りながら対応を進めています。JUKIを信頼しているお客様にいつまでも安心して、ミシンを使っていただくために活動しています。



製品の縫いに対する説明



縫製工場の管理者向けセミナー

産業装置事業

産業装置事業は、2013年8月1日より「JUKIオートメーションシステムズ株式会社」として活動を開始し、2014年3月1日からソニーグループの実装機器および関連機器事業と合併し新たな体制で活動を開始しました。新会社においては、お互いが培ってきたCS活動の仕組み・システム・技術力を融合させ、これまで以上のサービス品質向上に取り組んでいます。



サービスマントレーニング

品質保証・製品安全

お客様に喜ばれ、ご満足いただける製品とサービスを提供し続け、お客様と強い絆で結ばれることが私たちの願いです。この願いを実現するために、お客様やフィールド技術者からの品質情報の入手から対応までをスピードアップ。品質意識の向上と力量向上を目指した海外開発・製造拠点の「品質教育」や「資格取得」「技能教育」などの活動を継続しています。

また、お客様に安心して製品をお使いいただくため、各国の安全情報を入手し、最先端技術動向を捉えた製品を提供をしています。

品質問題発生時の対応

万が一、品質に問題発見された場合には、JUKIの販売会社を経由してクレーム連絡専用のシステムにて対応させて頂いています。今後も引き続き、様々なネットワークと手段を用いてお客様の声を受け止め、対応を図ってまいります。

協力会社との交流

JUKIでは毎年11月の品質月間に併せて、「JUKI協力会研修会」を開催しています。研修会ではJUKIの取り巻く環境と今後の方向性についての講演及び、顕著な成績を残されたお取引先に対する「感謝状」の贈呈と「保証納入認定書」の交付を行い、お取引先との協力関係維持強化に努めています。

2013年度は、国内のお取引先101社、107名にご参加いただき、8社に感謝状を贈呈し、48社に保証納入認定書を交付しました。



2013年度JUKI協力会 研修会

従業員とともに

多様な人材がともに活躍でき、 安全な職場作りを進めていきます

人材育成

JUKIではグローバルな視点で社会的な責任を果たし、その経営理念と価値観を体現できる社員の育成を目指しています。そのため、若手の早期の工場研修や海外経験、中堅社員の営業・製造などの第一線でのマネジメント経験などの機会を設け、目標管理制度や赴任前の異文化や語学の研修プログラムなどで育成強化を図っています。

国内外のグループ会社人材についても、本社研修プログラムの共有やグループ会社間での出向などの人材交流を通じて、グループ全体でコア人材層の拡大を図っています。

多様な人材の活躍

JUKIは多様な働き方やキャリアを可能とする人事制度や運用を通じて事業発展と社員満足度の向上に努力しています。コア人材を、転勤等を経験する全域型勤務のキャリアに限るのではなく、地域限定型キャリアに対する能力伸張の機会提供やマネジメントへの昇格、さらに高度専門職人材に対する職種限定のプロフェッショナル契約など、ライフワークバランス、性別、国籍などの違いを超えて有能で意欲ある人材が活躍できる場を増やしています。

高齢者人材においても若手・中堅社員と同様に貴重な人材として適材適所配置や役割、成果貢献に応じた処遇に努め、働きがいのある職場環境づくりを図っています。

TOPICS

[(株)鈴民精密工業所]職業能力開発 関係厚生労働大臣表彰功労賞

東京明治記念館で開催された「平成25年度 職業能力開発関係厚生労働大臣表彰式」において、(株)鈴民精密工業所 土田秀樹取締役製造統括部長が、功労賞を受賞されました。これは、永年、技能士の育成をはじめ、技能検定の活動や発展に寄与した功績が認められたものです。

(株)鈴民精密工業所では、社員の半数以上の者が国家技能士の有資格者となり、近隣地域においても非常に多くの技能者を有する企業になっています。



労働安全衛生

JUKI本社では、環境マネジメントシステムの緊急事態を「地震、火災による人的被害、土壌・大気・水質への影響」と定め、従来実施している防災訓練を、より総合的に取り組むとして実施しています。

2013年度は多摩消防署の指導・協力のもと、大地震の発生による機械加工室からの出火を想定し、机の下にもぐりこむ敏速な防御姿勢、初期消火、煙体験ハウス、起震車を体験し、本番さながらの訓練を行いました。

JUKI会津(株)では、喜多方消防署員の指導によるAED講習を塩川・西会津の両工場にて実施しました。訓練用の人形を相手に実際に人工呼吸やAED装置を装着させたり、喉に物が詰まった場合の救助方法や応急処置を学びました。



AEDによる応急処置訓練

TOPICS

[JUKIベトナム(株)]労災未然防止活動

JUKIベトナム(株)には、精密鑄造、部品加工、熱処理、塗装、組立、と非常に多くの製造工程があり、その各工程毎には隠れた危険作業や、危険個所が存在します。そういった危険から従業員を守り、労働災害を発生させない予防活動を積極的に行っています。

具体的には、毎月2回の安全衛生巡視活動やリスクアセスメント活動(危険リスクの存在を明らかにし、危険ではない状態にする、或いは危険度のレベルを下げる活動)で、その月次報告会による水平展開も実施しています。これらの労災未然防止活動を通じ、連続無災害記録の更新を目指しています。



危険予知トレーニングによるリスク低減活動



株主・投資家とともに

適時・適切、公平性に留意した企業情報を通じて 経営の透明性を高めていきます

機関投資家の皆様に向けた JUKI事業の理解促進

投資家の方々にJUKIへの理解を深めていただくとともに、長期に株式を保有していただける安定株主を増やすために、年2回の決算説明会の開催や、証券アナリスト・ファンドマネージャーに対する個別取材の対応を行っています。また、ホームページには、決算短信や有価証券報告書、事業報告書(株主の皆様へ)などの決算関連資料のほかにも、経営方針や事業内容など、理解を深めていただくための情報を積極的に開示しています。

個人株主の皆様に向けた JUKI事業の理解促進

JUKIの事業について理解をより一層深めていただくために、事業の概況と決算内容をまとめた「株主の皆様へ」を全株主様に年2回送付するとともに、ホームページの「個人投資家の皆様へ」において、タイムリーな情報提供を行っています。また、株主総会終了後には、主力製品の見学会を実施しています。

今後もJUKIの事業をより深くご理解いただけるように工夫してまいります。

地域社会とともに

世界各地で地域と良好な関係を築き、 JUKIらしい活動を展開しています

地域社会との コミュニケーション活動

JUKI本社では、毎年実施しています「小学生を対象にした、環境と社会科見学学習の活動」について、ESD(持続発展教育)の活動事例として、地域&産学官交流会の場で発表を行いました。これは地域の教育委員会が進める「2050年の大人づくり」と題して、社会のさまざまな事に関心を向け、自らの課題として考え行動する、未来の大人を育成するプログラムです。

今後も、子どもたちの学習に役立ち、持続可能な社会の構築に寄与する取り組みを、継続して進めてまいります。



小学5年生対象の社会科見学

地域社会への貢献

JUKI会津(株)は、2013年10月、日本赤十字社が行う事業活動に貢献した団体等へ贈呈する最高の賞である「金色有功章」を受章しました。社会貢献の一環として、喜多方市の協力により献血バスを手配していただき、毎年2回、20年以上に渡って従業員の献血活動を実施した結果、今回初めての受章となりました。

今後も引き続き、輸血を必要とする方のために、社内での献血活動の啓発に取り組む予定です。



JUKI

JUKI 株式会社

〒206-8551 東京都多摩市鶴牧2-11-1

TEL 042-357-2217

<http://www.juki.co.jp>